

調べてみよう!

日本の
伝統工芸の
みりよく

1

衣にかかわる伝統工芸①

織物

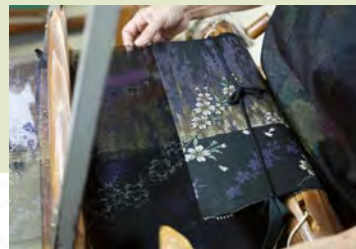
監修 一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会



調べてみよう!
日本の
伝統工芸の
みりよく

1

い 衣にかかわる伝統工芸①
おり もの 織物

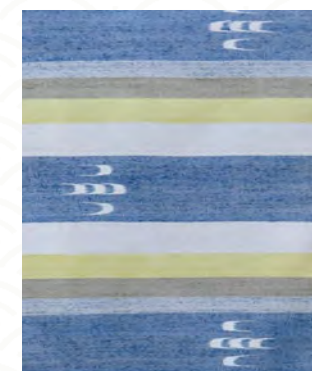


もくじ

この本の特色とつかいかた	6
衣にかかわる伝統工芸って?	8
◆身近な自然から生まれた織物／織物を知ろう	8
◆織物にかかわることば	11
◆博多織(福岡県)	12
●博多織の職人 遠藤龍二さんにインタビュー!	14
◆置賜紬(山形県)	16
◆結城紬(茨城県、栃木県)	18
◆桐生織(群馬県)	20
◆西陣織(京都府)	22
◆本場大島紬(鹿児島県、宮崎県)	24
◆久米島紬(沖縄県)	26



◆奥会津昭和からむし織(福島県)	28
◆小千谷縮(新潟県)	30
◆近江上布(滋賀県)	32
◆弓浜緋(鳥取県)	34
◆阿波正藍しじら織(徳島県)	36
◆八重山ミンサー(沖縄県)	38
◆二風谷アットウシ(北海道)	40
◆羽越しな布(山形県、新潟県)	42
都道府県別 伝統的工芸品一覧	44
さくいん	46



あつい生地にうきでる伝統のもよう

福岡県

博多織

どんな織物?

着物の帯として人気がある

博多織は、福岡県を中心につくられている絹織物（⇒10ページ）です。生地があつく、はりつつやがあり、博多帯とよばれる着物の帯としてつかわれてきました。生地にうきでたもようがとくちょうです。そのなかでも、江戸時代に江戸幕府に献上されたことから献上柄とよばれるもようが有名です。



▲博多織でつくられた博多帯。献上柄が織りだされている。

産地 九州を代表する港町

おもな産地である福岡県福岡市博多区は、福岡県の北西部にあり、日本海に面しています。古くからいまの中国や朝鮮半島との交易がさかんで、博多商人とよばれる商人がかつやくしてきました。いまも九州地方を代表する商業都市として知られています。



▲博多湾に面した博多港。国内有数の貿易港として知られる。

歴史 中国から技術をもち帰った

1241年に、博多商人の満田彌三右衛門が南宋（いまの中国）から織物の技術をもち帰りました。これが博多織のはじまりとされています。その約250年後には満田彌三右衛門の子孫が技術の研究にとりくみ、いまの博多織のように生地があつく、もようがうきでた織物を生みだしました。

江戸時代には、いまの福岡県北西部をおさめていた福岡藩が江戸幕府へ博多織を献上するようになります。これによって博多織は全国に知られるようになり、着物の帯として人気となりました。



▲博多織をつかったかばんとネクタイ。じょうぶな生地は、毎日つかってもいたみにくい。

つくりかた 糸を強くうちこんでもようをだす

博多織は、糸を染めてから織る先染めの絹織物です。しなやかでじょうぶな生地にしあげるため、糸に強くよりをかけます。織るときに糸を強くうちこんで、もようをうかびあがらせるのがとくちょうです。織るときにジャカード機（⇒11ページ）などの機械をつかうこともありますが、ここでは手織りでつくりかたをしょうかいします。

1 デザインを決める

生地がどのようにつかわれるのかを考えて、もようや色を決める。

2 糸を染める

決められたデザインをもとに、材料の絹糸を染める。

3 整経

たて糸の長さや本数をそろえ、車輪の形をした機械にまきつける。



4 たて糸をとりつける

3のたて糸を織機の綜絢（⇒9ページ）にとりつける。

5 よこ糸をよる

細いよこ糸数本をあわせてたばにする。

6 織る

杼（⇒9ページ）でたて糸のあいだによこ糸を通して織っていく。このとき、箆（⇒9ページ）でよこ糸をたて糸のあいだに強くうちこむ。



もよう 仏教にちなんだ献上柄

博多織を代表するもよう、献上柄は、4つのもようからできています。独鈷と華皿という仏教の道具をデザインした2つのもよう、親子縞、孝行縞とよばれる2つのしまもようです。

これらのもようにはそれぞれ意味があり、献上柄には、家がよく栄え、悪いものをおいはらう厄よけの願いがこめられています。



【献上柄】

独鈷

なやみや、まよいをうちくだとされる道具。悪いものをはらうという意味をもつ。

華皿

仏にそなえる花をいれる皿。幸福をまねくという意味をもつ。



親子縞

親（太い線）が子（細い線）を守る様子をあらわす。

孝行縞

子（細い線）が親（太い線）をうやまう様子をあらわす。

つかいやすさが人気のひみつ

博多織が帯としてつかわれてきたのは、もようがきれいだからというだけではありません。生地があつく、はりがあるため、一度しめるとゆるみにくいからです。また、じょうぶであることから、江戸時代には重い刀をこしにさす武士のあいだで人気でした。いまではさまざまなもようの博多帯がつくれ、男女をとわず高い人気をほこってい

ます。また、すもうの力士も献上柄の博多帯をしめています。



◀博多帯をしめた女性たち。最近、あざやかな色合いや新しいデザインのものも多くつくられている。

えん どうりゅう じ 遠藤龍二さんにインタビュー！

やく 780年の歴史をもつ博多織は、多くの人のく
夫や発見が重ねられ、発展してきました。その伝
統を受けつぎながら、いまの生活や好みに合った
新しい博多織づくりにちょうせんする、遠藤龍二
さんにお話をうかがいました。



●プロフィール

1953年 10月7日生まれ
1984年 父、遠藤文次に師事。
1990年 新作博多織展で
内閣総理大臣賞を受賞。
1997年 博多織の伝統工芸士に
認定される。
2020年現在 博多織伝統工芸士会
副会長。



はかたおり しょくにん
博多織の職人になった
きっかけは、なんですか。

「わたしは、博多織のおもな産地である福
岡県福岡市博多区で生まれ、博多区で育っ
てきました。家は100年以上の歴史をも
つ博多織の織元（織物の製造元）で、わたしはそ
の4代目にあたります。そのため小さいころから
博多織は身近なもので、博多織を織る「トーン、
トントントン」という音を聞いて育ちました。

大人になり、最初はべつの仕事をしていました。
ですが、先代の父が年をとるにつれて、父の技術
を受けつぎたいと考えるようになりました。31
歳のときに父の弟子となって、博多織の職人とし
ての一步をふみだしました。」



はかたおり
博多織のとくちょうや、じまんでできると
ころを教えてください。

「博多織は、絹糸をつかい、あつみがでる
ように織ります。そのため博多帯は、一
度しめるとゆるまないことが大きなとく
ちょうです。

何度もしめなおさなくてすむことから、毎日
もつかえるような普段着の帯として、多くの
人から愛されてきました。また、はげしい動き
をする祭りやおどりのときに身につける帯
としても人気があります。」



「遠藤さんの工房では、電
気で動く織機をつかって博
多織を織る。数千本の糸
は、1本1本すべて手作業
で綜絢（→9ページ）に
通す。」



「遠藤さんのつくった博多帯。花と
龍をイメージしてデザインしたもの。
あざやかな色合いで、着物姿をはな
やかにいどころ。」



「遠藤さんのつくった博多帯。こ
ちらは青い龍と白いトラをイメ
ージしたデザイン。ふくざつに色や
もようが組み合わせられている。」



はかたおり お
博多織を織ってきて、とくに
うれしかったことはどんなことですか。



「新しいデザインの博多織を織るとき、自
分がいろいろ考えて工夫をしたことが、う
まく表現できたときはうれしくなります。
博多織を織ってきて、とくにうれしかったのは、
内閣総理大臣賞を受賞したことです。自分の織
った博多織を、自分自身がよいと思えただけでなく、
多くの人からも評価してもらえたからです。」



はかたおり お
博多織を織るとき、むずかしいこと、
たいへんなことはありますか。



「博多織は、あつい生地をつくるため、た
て糸に細い絹糸を2000～3000本以上
つかいます。このたくさんのたて糸を正
確に綜絢に通すのが、とてもたいへんな作業です。
1本でもまちがえると、最初からやり直しになり
ます。また、織るときも、絹糸が切れてしまうと
生地にきずとなってでてしまうため、糸が切れる
たびに毎回すべてほどいて、やり直しています。
なので100パーセント満足できる博多織は、な
かなか織ることができません。それでも100パー
セントをめざして、毎日努力をつづけています。」



はかたおり
これからも博多織を受けついでい
くためには、なにが必要だと思いますか。



「博多織の伝統的な技術は、多くの先人た
ちによってつみ重ねられてきたものです。
かんきょうや生活、好み、考えかたは、時代に
合わせてかわっていきます。伝統的な技術を守
り、受けついでいくためには、新しいことへのちょ
うせんや、未来にむけた変化が必要だと思います。
わたしは、いまの若い人たちがファッションと
して博多織を生活にとり入れられるよう、かばん
や小物など、新しい作品づくりもしています。つ
ねに新しいことにちょうせんしていくことが、伝
統を受けつぐことにもなるのです。」



「デザインを考えてい
るところ。パソコンを
つかって、つかう色や
もようを細かく決める。」



「織機をつかって織
ているところ。糸が切
れていないか、もよう
がずれていないかを、
つきっきりでかくにん
しながら織っていく。」



「博多織の生地で作
ったかばん。リボンに
は献上柄がつけられて
いる。洋服にも合う
デザイン。」

と どう ふ けん べつ
都道府県別

てん とう てき こう げい ひん いち らん
伝統的工芸品一覧

ここでは、国に指定されている伝統的工芸品をまとめてかくにんできます。1巻から6巻でしょうかいしている伝統的工芸品については、それぞれの巻とページをしめています。

都道府県	品目名
北海道	二風谷アットウシ →1巻40ページ
青森県	津軽塗 →4巻16ページ
岩手県	南部鉄器 →3巻34ページ
岩手県	秀衡塗 →4巻18ページ
岩手県	岩谷堂簞笥 →5巻12ページ
岩手県	浄法寺塗 →5巻12ページ
宮城県	雄勝硯 →6巻20ページ
宮城県	宮城伝統こけし →6巻30ページ
宮城県	鳴子漆器 →6巻30ページ
宮城県	仙台筆笥 →6巻30ページ
秋田県	樺細工 →4巻30ページ
秋田県	大館曲げわっぱ →4巻32ページ
秋田県	川連漆器 →4巻32ページ
秋田県	秋田杉桶樽 →4巻32ページ
山形県	置賜紬 →1巻16ページ
山形県	羽越しな布 →1巻42ページ
山形県	天童将棋駒 →6巻36ページ
山形県	山形錆物 →6巻36ページ
山形県	山形仏壇 →6巻36ページ
山形県	奥会津昭和からむし織 →1巻28ページ
福島県	会津塗 →4巻20ページ
福島県	奥会津編み組細工 →4巻34ページ
福島県	大堀相馬焼 →4巻34ページ
茨城県	結城紬 →1巻18ページ
茨城県	真壁石燈籠 →5巻32ページ
栃木県	結城紬 →1巻18ページ
栃木県	益子焼 →1巻18ページ
群馬県	桐生織 →1巻20ページ
群馬県	伊勢崎紬 →1巻20ページ
埼玉県	行田足袋 →2巻22ページ
埼玉県	秩父銘仙 →2巻22ページ
埼玉県	春日部桐簞笥 →2巻22ページ
埼玉県	江戸木目込人形 →2巻22ページ
埼玉県	岩槻人形 →2巻22ページ

都道府県	品目名
千葉県	房州うちわ →6巻38ページ
千葉県	千葉工匠具 →6巻38ページ
東京都	東京手描友禅 →2巻16ページ
東京都	江戸切子 →3巻40ページ
東京都	江戸からかみ →5巻36ページ
東京都	村山大島紬 →5巻36ページ
東京都	本場黄八丈 →5巻36ページ
東京都	多摩織 →5巻36ページ
東京都	東京染小紋 →5巻36ページ
東京都	東京無地染 →5巻36ページ
東京都	江戸和竿 →5巻36ページ
東京都	江戸指物 →5巻36ページ
東京都	東京銀器 →5巻36ページ
東京都	東京アンチモニー工芸品 →5巻36ページ
東京都	江戸木目込人形 →5巻36ページ
東京都	江戸節句人形 →5巻36ページ
東京都	江戸押絵 →5巻36ページ
東京都	江戸木版画 →5巻36ページ
東京都	江戸硝子 →5巻36ページ
東京都	江戸べっ甲 →5巻36ページ
神奈川県	鎌倉彫 →4巻22ページ
神奈川県	箱根寄木細工 →6巻40ページ
新潟県	小田原漆器 →1巻30ページ
新潟県	小千谷縮 →1巻30ページ
新潟県	羽越しな布 →1巻42ページ
新潟県	燕鉋起銅器 →3巻36ページ
新潟県	塩沢紬 →3巻36ページ
新潟県	小千谷縮 →3巻36ページ
新潟県	本塩沢 →3巻36ページ
新潟県	十日町紬 →3巻36ページ
新潟県	十日町明石ちぢみ →3巻36ページ
新潟県	村上木彫堆朱 →3巻36ページ
新潟県	新潟漆器 →3巻36ページ
新潟県	加茂桐簞笥 →3巻36ページ
新潟県	越後与板打刃物 →3巻36ページ
新潟県	越後三条打刃物 →3巻36ページ
新潟県	新潟・白根仏壇 →3巻36ページ
新潟県	長岡仏壇 →3巻36ページ
新潟県	三条仏壇 →3巻36ページ

都道府県	品目名
富山県	越中福岡の菅笠 →2巻38ページ
富山県	井波彫刻 →5巻16ページ
富山県	高岡漆器 →5巻16ページ
富山県	高岡銅器 →5巻16ページ
富山県	越中和紙 →5巻16ページ
富山県	庄川挽物木地 →5巻16ページ
富山県	加賀繡 →2巻24ページ
富山県	九谷焼 →3巻16ページ
富山県	金沢箔 →3巻42ページ
富山県	輪島塗 →4巻12ページ
富山県	牛首細 →4巻12ページ
富山県	加賀友禅 →4巻12ページ
富山県	山中漆器 →4巻12ページ
富山県	金沢漆器 →4巻12ページ
富山県	金沢仏壇 →4巻12ページ
富山県	七尾仏壇 →4巻12ページ
富山県	若狭めのう細工 →2巻30ページ
富山県	若狭塗 →4巻24ページ
富山県	越前焼 →4巻24ページ
富山県	越前漆器 →4巻24ページ
富山県	越前簞笥 →4巻24ページ
富山県	越前打刃物 →4巻24ページ
富山県	越前和紙 →4巻24ページ
富山県	甲州水晶貴石細工 →2巻32ページ
富山県	甲州印伝 →2巻40ページ
富山県	甲州手彫印章 →2巻40ページ
富山県	木曾漆器 →4巻26ページ
富山県	松本家具 →5巻18ページ
富山県	信州紬 →5巻18ページ
富山県	南木曾ろくろ細工 →5巻18ページ
富山県	信州打刃物 →5巻18ページ
富山県	飯山仏壇 →5巻18ページ
富山県	内山紙 →5巻18ページ
富山県	美濃焼 →3巻18ページ
富山県	一位一刀彫 →5巻38ページ
富山県	美濃和紙 →6巻12ページ
富山県	飛騨春慶 →6巻12ページ
富山県	岐阜提灯 →6巻12ページ

都道府県	品目名
静岡県	駿河雛人形 →6巻32ページ
静岡県	駿河竹千筋細工 →6巻32ページ
静岡県	駿河雛具 →6巻32ページ
静岡県	有松・鳴海絞 →2巻18ページ
静岡県	三河仏壇 →5巻26ページ
静岡県	名古屋友禅 →5巻26ページ
静岡県	名古屋黒紋付染 →5巻26ページ
静岡県	常滑焼 →5巻26ページ
静岡県	赤津焼 →5巻26ページ
静岡県	瀬戸染付焼 →5巻26ページ
静岡県	三州鬼瓦工芸品 →5巻26ページ
静岡県	名古屋桐簞笥 →5巻26ページ
静岡県	名古屋仏壇 →5巻26ページ
静岡県	尾張仏具 →5巻26ページ
静岡県	豊橋筆 →5巻26ページ
静岡県	岡崎石工品 →5巻26ページ
静岡県	尾張七宝 →5巻26ページ
静岡県	伊賀くみひも →2巻26ページ
静岡県	四日市萬古焼 →3巻20ページ
静岡県	伊賀焼 →3巻20ページ
静岡県	鈴鹿墨 →3巻20ページ
静岡県	伊勢形紙 →3巻20ページ
静岡県	近江上布 →1巻32ページ
静岡県	信楽焼 →3巻22ページ
静岡県	彦根仏壇 →5巻28ページ
静岡県	西陣織 →1巻22ページ
静岡県	京友禅 →2巻12ページ
静岡県	京扇子 →2巻28ページ
静岡県	京鹿の子絞 →2巻28ページ
静岡県	京小紋 →2巻28ページ
静岡県	京黒紋付染 →2巻28ページ
静岡県	京繡 →2巻28ページ
静岡県	京くみひも →2巻28ページ
静岡県	京焼・清水焼 →2巻28ページ
静岡県	京漆器 →2巻28ページ
静岡県	京指物 →2巻28ページ
静岡県	京仏壇 →2巻28ページ
静岡県	京仏具 →2巻28ページ
静岡県	京石工芸品 →2巻28ページ
静岡県	京うちわ →2巻28ページ
静岡県	京表具 →2巻28ページ

都道府県	品目名
大阪府	堺打刃物 →3巻38ページ
大阪府	大阪唐木指物 →5巻20ページ
大阪府	大阪金剛簾 →5巻22ページ
大阪府	浪華本染め →5巻22ページ
大阪府	大阪欄間 →5巻22ページ
大阪府	大阪泉州桐簞笥 →5巻22ページ
大阪府	大阪浪華錫器 →5巻22ページ
大阪府	大阪仏壇 →5巻22ページ
大阪府	豊岡杞柳細工 →2巻42ページ
大阪府	播州そろばん →6巻22ページ
大阪府	丹波立杭焼 →6巻22ページ
大阪府	出石焼 →6巻22ページ
大阪府	播州三木打刃物 →6巻22ページ
大阪府	播州毛鉤 →6巻22ページ
大阪府	高山茶室 →4巻38ページ
大阪府	奈良墨 →6巻24ページ
大阪府	奈良筆 →6巻24ページ
大阪府	紀州漆器 →4巻28ページ
大阪府	紀州簞笥 →5巻24ページ
大阪府	紀州へら竿 →5巻24ページ
大阪府	弓浜紬 →1巻34ページ
大阪府	出雲石燈ろう →5巻34ページ
大阪府	因州和紙 →5巻34ページ
大阪府	出雲石燈ろう →5巻34ページ
大阪府	石州和紙 →6巻16ページ
大阪府	石見焼 →6巻16ページ
大阪府	雲州そろばん →6巻16ページ
大阪府	備前焼 →3巻24ページ
大阪府	勝山竹細工 →4巻40ページ
大阪府	宮島細工 →4巻36ページ
大阪府	熊野筆 →6巻26ページ
大阪府	広島仏壇 →6巻26ページ
大阪府	川尻筆 →6巻26ページ
大阪府	福山琴 →6巻26ページ
大阪府	萩焼 →3巻26ページ
大阪府	赤間硯 →6巻28ページ
大阪府	大内塗 →6巻28ページ
大阪府	砥部焼 →3巻28ページ
大阪府	大洲和紙 →3巻28ページ
大阪府	阿波正藍しじら織 →1巻36ページ
大阪府	大谷焼 →3巻30ページ
大阪府	阿波和紙 →3巻30ページ

都道府県	品目名
香川県	丸亀うちわ →6巻42ページ
香川県	香川漆器 →6巻42ページ
高知県	土佐和紙 →6巻18ページ
高知県	土佐打刃物 →6巻18ページ
高知県	博多織 →1巻12ページ
高知県	八女提灯 →5巻40ページ
高知県	博多人形 →6巻34ページ
高知県	久留米紬 →6巻34ページ
高知県	小石原焼 →6巻34ページ
高知県	上野焼 →6巻34ページ
高知県	八女福島仏壇 →6巻34ページ
高知県	伊万里・有田焼 →3巻12ページ
高知県	唐津焼 →3巻12ページ
高知県	別府竹細工 →4巻42ページ
高知県	長崎べっ甲 →2巻34ページ
高知県	三川内焼 →3巻32ページ
高知県	波佐見焼 →3巻32ページ
高知県	肥後象がん →2巻36ページ
高知県	小代焼 →2巻36ページ
高知県	天草陶磁器 →2巻36ページ
高知県	山鹿灯籠 →2巻36ページ
高知県	本場大島紬 →1巻24ページ
高知県	都城大弓 →1巻24ページ
高知県	本場大島紬 →1巻24ページ
高知県	川辺仏壇 →5巻30ページ
高知県	薩摩焼 →5巻30ページ
高知県	久米島紬 →1巻26ページ
高知県	八重山ミンサー →1巻38ページ
高知県	琉球びんがた →2巻20ページ
高知県	三線 →5巻42ページ
高知県	宮古上布 →5巻42ページ
高知県	読谷山花織 →5巻42ページ
高知県	読谷山ミンサー →5巻42ページ
高知県	琉球紬 →5巻42ページ
高知県	琉球織 →5巻42ページ
高知県	与那国織 →5巻42ページ
高知県	喜如嘉の芭蕉布 →5巻42ページ
高知県	八重山上布 →5巻42ページ
高知県	知花花織 →5巻42ページ
高知県	南風原花織 →5巻42ページ
高知県	壺屋焼 →5巻42ページ
高知県	琉球漆器 →5巻42ページ

(2020年8月現在)